

皆さまからの主なご意見を紹介します。

本市では、「誰もが利用できる環境にやさしい交通ネットワーク」の実現に向けて、6月9日の「公共交通ネットワークの構築と東西基幹公共交通」に関するパンフレットの配布をはじめ、これまで市内各地でオープンハウスや市民フォーラムを開催し、市民の皆様と意見交換を行ってきました。

このうちオープンハウスにつきましては、市内14会場で延べ49日間開催し、2,400人を超える方々にご来場いただき、また市民フォーラムにつきましては、13会場で約980人の方々にご来場いただいたところです。

皆様からいただいたご意見と、ご意見に対するこれまでの市からの回答につきまして、次のとおりご紹介いたします。

【公共交通ネットワークの構築について】

- ・ 近所のお年寄りや家族の送り迎えがないとどこへも行けず苦労している。
- ・ 超高齢社会に備えて早急に取り組むべき。現在の交通ネットワークのままでは不安。
- ・ あと数年でクルマに乗れなくなるときがくる。その時になってもあちこち出掛けたい。
- ・ 待たなしの環境問題。次世代に問題を残さないために対策が急がれている。
- ・ 便利でエコな公共交通ネットワーク、次世代にふさわしいと思う。
- ・ 最近、宇都宮に引っ越してきたが、自動車がないと不便で大変驚いている。
- ・ 地下鉄や路面電車など公共交通が充実した都市では、住民はまちを誇りにしている。

[市の考え]

本市では、人口減少時代や超高齢社会、地球環境問題などに対応した持続的に発展し続ける魅力あふれるまちを目指しています。そのためには、鉄道やバス、地域内交通、タクシーなどの公共交通と自動車や自転車など、さまざまな交通手段を効率よく階層的に連携させ、いつでも、だれでも、どこへでも気軽に便利に移動が出来るネットワークを構築していく必要があると考えています。

- ・ 地域内交通（デマンド型タクシー）はとてもいい。親がよく使っている。
- ・ 料金や運行本数などサービス水準を高めて、いろんな所へ行けるようにしないと公共交通は利用されない。
- ・ 普段自動車を利用しているので、公共交通の必要性についてあまり考えていない。
- ・ 車中心の生活から、そう簡単には抜け出せないと思う。
- ・ 路線バスのサービス向上のため、支援を行ってほしい。

〔市の考え〕

現在の自動車に過度に依存した社会から、自動車交通と公共交通とが共存した社会に転換していくためには、誰もが利用できる利便性の高い公共交通ネットワークを構築していく必要があります。そのために、最も身近な公共交通である地域内交通の導入とともに、バス路線の新設につながる社会実験の実施などを含めて、路線バスや循環バスの拡充、鉄道駅の利便性向上など、さまざまな施策に取り組んでいきます。

- ・ 地域内交通と路線バスや鉄道との乗り継ぎが便利にできるようにしてほしい。
- ・ 乗り継ぎは大きな負担。乗り継ぎをすることを前提にした公共交通ネットワークは、利用されないと思う。
- ・ 鉄道からバスの乗り継ぎがしやすいようＩＣカードの導入を進めてほしい。また、富山市のお出かけ定期のように、日中は１回１００円で利用できるなど、高齢者が利用しやすい取組も進めてほしい。

〔市の考え〕

利便性の高いネットワークを構築するためには、さまざまな交通手段の乗り換えをスムーズにする必要があります。そのため、乗り換え施設の整備とともに、ＩＣカードの導入や運賃を低減できる取組みなどについても合わせて検討していきます。

【東西基幹公共交通・新交通システムの導入について】

- ・ 財政の健全性が維持できるのであれば大いに進めてほしい。
- ・ バスを増やすことでも、今よりも便利な公共交通ネットワークはできる。
- ・ 採算が合うとは思えない。大きな借金をつくるだけ。赤字が続いたらどうするのか。
- ・ 一般会計で 1,200 億円以上の市債残高を抱え、今後ますます財政状況が厳しくなることが予想される中、多額の費用がかかる事業は行うべきではない。

〔市の考え〕

東西基幹公共交通は、本市が目指す公共交通ネットワークの中心となるもので、求められる機能や役割から、都市に不可欠な都市基盤として道路や公園などと同様に、行政が責任を持って整備していく必要があると考えています。

また、東西基幹公共交通の運営については、公設型上下分離方式を採用し、その整備については行政が担うことで、民間企業による運営主体は安定的に経営していくことが可能となると考えています。

なお、東西基幹公共交通の整備費については、毎年、市が支出している予算の範囲で十分対応していくことが可能であると考えています。市債については、効果が長期的に及ぶ社会資本を整備する場合に、世代間の負担を均衡にしていこうとの考えに基づき、適切に活用してまいります。一方で徹底した行財政改革にも取り組んでおり、着実な市債残高の縮減に努めています。

- ・ 東西基幹公共交通を利用していく場合に、自動車や自転車、またバスや地域内交通との連携はどのように考えているのか。

〔市の考え〕

東西基幹公共交通と各種交通機関（鉄道、バスなど）との連携が想定される箇所に、多くの方が便利に乗り継ぎできる施設として、対面式のバス停留場、駐車場、駐輪場、タクシー乗降場や送迎用乗降場などを備えたトランジットセンター（交通結節点）を整備することにより、沿線地域を含め多くの方が利用できるようになります。

- ・ 新交通システムの導入には賛成だが15kmだけでは、十分な効果は得られない。将来に向けた夢が描けない。
- ・ 現在の計画ルートについて、さらに見直し、桜通りで止めてしまうのではなく、外環状線まで延長し、さらに、外環状線そのものを一周させてはどうか。

[市の考え]

現在の計画ルートである桜通り十文字付近から宇都宮テクノポリスセンター地区までの約15kmについては、本市における拠点間の連携、鉄道やバスといった他の交通機関との連携などの観点から設定されたものであります。

なお、このルートについては、本市のみならず栃木県における東西の公共交通軸の一部を担うものと考えておりますことから、今後は、広域的な交通ネットワークの構築も視野に入れながら取組を進めていきます。

- ・ 東西基幹公共交通は、新たな市街地の拡散を招き、宇都宮が目指すネットワーク型コンパクトシティの考え方と矛盾する。
- ・ 私が住んでいる地域には東西基幹公共交通は通らないので不公平に感じる。

[市の考え]

東西基幹公共交通の導入により、さまざまな機能の集積が促進され、効率的で機能的なまちが形成されるものと考えています。また、既存の鉄道とともに東西基幹公共交通を中心として、さまざまな公共交通がつながることにより、宇都宮市内の拠点・地域間が便利に移動できるようになり、それぞれの地域において、その特性を活かしたまちづくりが可能となると考えています。

- ・ 新交通システムを導入すると車線が減少し、交通渋滞が発生するのではないかと心配。
- ・ 新交通システムの交差点処理が上手くできるのか心配である。

[市の考え]

東西基幹公共交通の整備と合わせて、宇都宮テクノ街道をはじめとする周辺の道路交通ネットワークの整備など、全体的な交通容量を増やしていく取組も進めているところであり、クルマ利用から快適に移動できる新交通システムへの利用転換を促していく取組の促進なども含めた総合的な視点から、交通管理者や道路管理者と連携しながら取り組んでいきます。

- ・ 1日当たり44,900人の利用を想定しているが、どのような利用者を見込んでいるのか。朝夕は通勤通学で利用されたとしても、昼間はほとんど乗らないと思う。

[市の考え]

需要予測は、平成32年の宇都宮市（合併前）の人口を45万人と推計し、沿線住民や従業者に対する交通機関利用者意識調査（アンケート）結果に基づき行ったものです。

内訳は、通勤通学（11,500人/日）や日常の買物・通院（9,900人/日）など、目的地に向って利用する人数の合計が21,400人/日、業務に関連して利用する人数が2,200人/日、目的地から帰宅するために利用する人数が21,400人/日と算出しています。（合計44,900人/日）

また、日中の利用につきましても、総合的な公共交通ネットワークが形成されることにより、路線バスや地域内交通から乗り継がれた高齢者の方などに、買物や通院に安心してご利用いただくとともに、業務関係での利用なども想定しています。

- ・ まちのシンボルとして必要だと思う。宇都宮は魅力が足りない。
- ・ 中心市街地に行く機会がない。東西基幹公共交通を整備しても、中心市街地が賑わうことはない。
- ・ まちに賑わいを戻してから考えることのような気がする。

[市の考え]

本市の魅力を高め、賑わいを創出していくためには、誰もが訪れたいくなるような魅力のある中心市街地の形成とともに、いつでも気軽に中心市街地にアクセスすることのできる交通手段の確保が必要であると考えています。そのため、基幹公共交通を中心として、バスや地域内交通など、さまざま公共交通をスムーズにつなぎ、各地域と中心市街地とのアクセス性を高める取組を進めていきます。

【参考：市民説明の取組状況】

◆ 市民フォーラム〔14回開催〕

地 域	「地域」市民フォーラム	「地区」市民フォーラム
北東部	河内生涯学習センター（6/28）	上河内地域自治センター（7/6）
東 部	清原工業団地管理センター（7/4）	平石地区市民センター（7/12） 瑞穂野地区市民センター（8/3）
北西部	国本地区市民センター（7/9）	富屋地区市民センター（7/13） 篠井地区市民センター（7/19） 城山地区市民センター（8/8）
南 部	宇都宮市立南図書館（7/20）	姿川地区市民センター（7/29） 横川地区市民センター（7/30）
中央部	栃木県教育会館 8月25日（土）	豊郷地区市民センター（7/31）

（13回開催時点 参加者数合計：975人）

◆ オープンハウス〔14会場 延べ49日間開催〕

北東部	河内地域自治センター（6/26～28），上河内地域自治センター（7/4～6）
東 部	清原地区市民センター（7/2～4），平石地区市民センター（7/10～12） 瑞穂野地区市民センター（8/1～3）
北西部	国本地区市民センター（7/5・6・9），富屋地区市民センター（7/11～13） 篠井地区市民センター（7/17～19），城山地区市民センター（8/6～8）
南 部	雀宮地区市民センター（7/18～20），姿川地区市民センター（7/25～27） 横川地区市民センター（7/26・27・30）
中央部	市役所本庁市民ホール（6/11～15），（8/20～24） 豊郷地区市民センター（7/27・30・31）

（8/22時点 延べ49日間開催 来場者数合計：2,421人）